

ちのキャラクターを明確にするエピソードを加えるよりも、彼女たちの顔、つまり若き女優たちの顔を見せることが最優先されているのだ。

マールにせよブリー・ラーソンにせよ、今でこそ世界的に有名な女優となっているが、『タナーホール』の撮影時はまだそれほど知られた存在ではなかった。マールはこの作品が公開される前後に『ソーシャル・ネットワーク』の撮影に入り、それをきっかけに『ドラゴン・タトゥーの女』のヒロインの座を勝ち取ったと聞く。タナーホールを卒業した彼女が、大学に入ってマーク・ザッカーバークの恋人となつてひどい目にあい、タトゥーを彫って天才ハッカーに変貌した……と妄想したくなるが、それを許さないのもまたマールの顔である。『タナーホール』で映し出される彼女の顔は、『ソーシャル・ネットワーク』『ドラゴン・タトゥーの女』あるいは『キャロル』に登場した彼女と同じ人物ではないように見えるのだ。すでにルーニー・マールという女優を知ったあとに観たせいとか、自分が記憶している顔のイメージとフェルナンダとして写るその顔が重ならないことに驚いてしまったほどだ。カメレオン女優だといえればそれまでだが、マールほどではなくとも、ブリー・ラーソンに対してもどこか顔が違うような印象を受けたので、『タナーホール』という作品によるところもあるのではないだろうか。

はたしてこの作品の何が4人の少女たちの顔を、他の映画や写真で見ると異なるのか、あるいは若さによるものか、その理由をいろいろ考えてはみたものの、結局よくわかっていない。ただ、ひとつ言えるのは、監督のグレゴリー・ニとヴォン・ファーステンバーグが求めたのは、若き女優たちのまだ広く流布されていない顔、撮影当時の年齢でしか見せられない顔を撮影することだったのではないかと。それは「石垣

囲まれた寮の中」で暮らし、その外に出て生活するようになる「来年のことも不明瞭」である少女たちについて語ることに直結する行為でもある。

自身もイギリスの寄宿学校を卒業したという2人の女性監督は、閉ざされた世界の中で過ごす、永遠のようでいて短い少女の時間を肯定も否定もせず、何らかの批評も加えず、ただその空間とそこにいる彼女たちの顔を見ている。タナーホールにいた4人の少女たちがその後どうなるか予測はできない。ただこの場所で過ごした時間はこれから彼女たちの一部となるだろう、記憶が薄れても、思い出さなくなっても、フェルナンダとビクトリアが初めて肩を並べて寮に歩いて帰るラストシーンで流れるのはカナダのバンド、スターズの『Your Ex-Lover Is Dead』という曲だ。その歌は、そしてこの映画は、こんな歌詞で締めくくられる。「私はあなたに出会ったことをすまないと思っていない／別れたことを残念だと思っていない／何も言うことがないの悪いと思っていない」



★12

「ドラゴン・タトゥーの女」
監督：デヴィッド・フィンチャー
脚本：ステイヴン・ゾリンジャー
撮影：ジェフ・クロウ、サイモン・ロズ
音楽：トレント・レスナー、アッティカス・カースト・ダニエル・クレイク、ルーニー・マール
2011/158分/アメリカ

★13

「キャロル」
監督：トッド・ヘインズ
脚本：フィリス・ナジ
撮影：エドワード・ラックマン
音楽：カーター・パーヴェル
キャスト：ケイト・ブランシェット、ルーニー・マール
2015/118分/イギリス、アメリカ、フランス

★9

「ハッピーアワー」
監督：濱口竜介、野原浩、高橋知由
脚本：濱口竜介、野原浩、高橋知由
撮影：北川恵雄
音楽：阿部海太郎
キャスト：田中幸恵、菊池葉月、三原麻衣子、川村りょう
2015/317分/日本

★10

「ゴーストバスターズ」
監督：ビル・フェイグ
脚本：ケイ・テイ・デイホルド、ポール・フェイグ
撮影：ロバート・イエーモン
音楽：セオドア・シャピロ
キャスト：メリッサ・マッカーシー、クリス・ワイルド、ケイト・マッキノン、レスリー・ジョーンス
2016/116分/アメリカ

★11

「ソーシャル・ネットワーク」
監督：デヴィッド・フィンチャー
脚本：アロルド・ソーンキンチャー
撮影：ジェフ・クロウ、サイモン・ロズ
音楽：トレント・レスナー、アッティカス・カースト・ダニエル・クレイク、ルーニー・マール
2011/120分/アメリカ

黒岩幹子(くろいわ・みきこ)

「boidマガジン」
(<http://boid-mag.publishers.fm/>)「東京中日スポーツ」モーターススポーツ面の編集。「nobody」「映画芸術」「IndieTokyo」などに寄稿。好きな青春映画は数あれど、どうしてか長年ベスト1に君臨し続けているのは「結婚の条件」。